



2017 年度  
リーディングプログラム  
成果発表会

日時 9月28日(木)10:00～16:00  
会場 工学研究科中央棟大会議室

次 第

<午前部>10:00～12:20

1. 挨拶

東北大学学位プログラム推進機構長	
東北大学 理事(教育・学生支援・教育国際交流担当)	花輪 公雄
グローバル安全学教育研究センター長	湯上 浩雄
マルチディメンジョン物質理工学教育研究センター長	長坂 徹也

2. 優秀学生賞授与

グローバル安全学トップリーダー育成プログラム	藤田 遼
マルチディメンジョン物質理工学リーダー養成プログラム	柳 淀春

3. 成果発表

①気候変動問題 × 安全・安心 ～二刀流の博士課程生活を振り返る～	藤田 遼(GS)
②Pt の結晶性によるスピンドYNAMIX	柳 淀春(MD)
③スーパーインターンシップに参加して	平田萌々子(GS)
④リーディング活動で得られたこと	黒子めぐみ(MD)
⑤G-Safety の強みが生んだ「減災アクションカードゲーム」	久松 明史(GS)
⑥インターンシップを用いた博士研究の発展	古谷 拓希(MD)

※GS:グローバル安全学トップリーダー育成プログラム, MD:マルチディメンジョン物質理工学リーダー養成プログラム

4. 講評

リーディングプログラム部門長	静谷 啓樹
----------------	-------

<午後の部>13:20~16:00 (会場:工学研究科中央棟中会議室)

1. ワークショップ
2. グループ発表
3. 優秀グループ賞発表・講評
4. 全体講評
5. 閉会

---

【テーマ】

イノベーションと起業のあり方

【趣旨】

プログラム修了後に産業界で働く場合、研究・開発に携わることが想定される。その成果は通常、企業の発展に使われるが、所与の条件次第ではイノベーションの場を外部に求めて起業することもあり得る。米国等ではベンチャー企業がイノベーションを牽引することが多く、本邦とは状況がかなり異なる。彼我の違いも考慮して、イノベーションのために組織内に留まる場合と起業する場合の分岐となる判断基準、起業によってアイデアを実現するために必要な条件等をグループ内で意見交換し、考えをまとめて発表する。

本成果発表会は、安全安心プログラム及び物質プログラムの学生が、プログラムにおける学修の成果をそれぞれ発表し、またワークショップにより学生間の親睦を深めることで、互いに切磋琢磨し、より一層高い意欲を持ってプログラムに参加してもらうことを目的としています。

東北大学学位プログラム推進機構  
リーディングプログラム部門

<http://lgs.tohoku.ac.jp/index.html>

## 成果発表プログラム

氏名	学年 (プログラム入学年度)	プログラム・所属研究科・専攻
ふじた りょう 藤田 遼	D3 (平成 25 年)	グローバル安全学トップリーダー育成プログラム 理学研究科・地球物理学専攻
テーマ	気候変動問題 × 安全・安心 ～二刀流の博士課程生活を振り返る～	
1	<p><b>【発表内容】</b></p> <p>本発表では、発表者がこれまでリーディング大学院で過ごした約 4 年半を振り返り、そこから学んだこと・感じたことを報告する。具体的には、気候変動問題との向き合い方に関する漠然とした興味・疑問と共に進学した博士課程の中で、科学技術社会論(STS)と巡り会い、自主企画活動を立ち上げ、COP21 へ参加した経験を通じて、そこで得られたフィードバックをもとに形成されてきた新たな専門力のかたちについて述べる。</p> <p><b>【受賞理由】</b></p> <p>1 期生として 5 年一貫教育を受け、講義・研修等で優れた成績を修め、Qualifying Examination(QE)においても高評価を得た。また、学生自主企画活動による 3 件の学会発表、研究テーマである地球温暖化に関連する若手 NGO に参画し、COP21 にも参加した。これらの活動を通じて、本プログラムが目指す人材像の各種能力を高いレベルで獲得した。</p>	
りゅう じよんちゆん 柳 淀春	D3 (平成 26 年)	マルチディメンジョン物質工学リーダー養成プログラム 工学研究科・知能デバイス材料学専攻
テーマ	Pt の結晶性によるスピンドイナミクス	
2	<p><b>【発表内容】</b></p> <p>スピントロニクス分野において金属内のスピンの制御は次世代のデバイスを構築する要素として注目を集めている。本発表では金属の結晶性によるスピンの振る舞いを探索した結果と共に、リーディングプログラムのインターンシップから得られた本テーマに関する成果を発表する。</p> <p><b>【受賞理由】</b></p> <p>企業インターンシップにおいては、短期間のうちに特許と論文を作成し、また、マサチューセッツ工科大学(MIT)への海外インターンシップにおいては、目覚ましい成果により、滞在先の教授より延長の申し出を受け、都合 8 ヶ月にわたり滞在するなど、本プログラムの理念を実践した。</p>	

氏名	学年 (プログラム入学年度)	プログラム・所属研究科・専攻
ひらた ももこ 平田萌々子	D3 (平成 26 年)	グローバル安全学トップリーダー育成プログラム 理学研究科・地学専攻
テーマ	スーパーインターンシップに参加して	
3	<b>【発表内容】</b> <p>本発表では 2016 年に実施した JICA(国際協力機構)ニカラグアでのインターンシップについて報告する。本インターンでは中米広域防災能力向上プロジェクトフェーズ 2(BOSAI II)に配属され、「コミュニティ防災」に関する調査・分析・提言を実施した。本発表では専門知を社会にどう活用できるかといった視点から、本プログラムの意義を検討したい。</p>	
くろす 黒子めぐみ	D2 (平成 26 年)	マルチディメンジョン物質理工学リーダー養成プログラム 理学研究科・物理学専攻
テーマ	リーディング活動で得られたこと	
4	<b>【発表内容】</b> <p>発表者はこれまでに海外インターンシップ、プログラム内インターンシップを行ってきたので、その総括を行う。次いで、発表者が中心となって企画したつくば見学旅行について、得られた知見を発表する。最後にこれらの経験で得られたものをもとに、後輩への助言を行う。</p>	
ひさまつ あきふみ 久松 明史	D3 (平成 25 年)	グローバル安全学トップリーダー育成プログラム 工学研究科・土木工学専攻
テーマ	G-Safety の強みが生んだ「減災アクションカードゲーム」	
5	<b>【発表内容】</b> <p>学生自主企画活動の中で開発された新しい防災教育教材の開発経緯と開発における工夫、開発後の展開活動を紹介する。一連の活動を通して見えてきた「G-Safety の強み」について考察する。</p>	
ふるや ひろき 古谷 拓希	D2 (平成 26 年)	マルチディメンジョン物質理工学リーダー養成プログラム 工学研究科・材料システム工学専攻
テーマ	インターンシップを用いた博士研究の発展	
6	<b>【発表内容】</b> <p>MDプログラムのカリキュラムである、企業・海外・プログラム内の三種のインターンシップを通し、所属研究室では行うことの出来ない実験に取り組み、優れた結果および貴重な経験を得ることができた。各インターンシップの意義や成果について、研究内容を踏まえ報告する。</p>	